

フィリピンエクスポージャープログラム 2015 参加者

国際学部国際学科 3年 M. I.

国際学部国際学科 1年 Y. O.

心理学部教育発達学科 2年 T. K.

社会学部社会学科 3年 M. N.

国際学部国際学科 3年 N. F.

社会学部社会福祉学科 1年 Y. H.

※学年は参加当時です



～フィリピン 概要～

- 7000以上の島から成り立つ国
- 299,404平方キロメートル 面積は日本の約8割
- 人口約1億98万人、首都マニラ約1,288万人が生活している
- ASEAN唯一のキリスト教国 国民の83%がカトリック
- 国語はフィリピン語、公用語はフィリピン語及び英語 80前後の言語がある
- 1521年にスペイン国王の援助を受けたマゼランが世界一周への航路の途中でセブ島に上陸したことからスペインの植民地となった
- 1898年の米西戦争をきっかけにスペインからアメリカの植民地となった

～ネグロス 概要～

- フィリピンの中で4番目に大きな島
- 面積12,710平方キロメートル

- 人口は西州で約 2,497 千人、東州で約 1,355 千人
- 西州では主にイロongo語、東州では主にセブアノ語を話す
- ネグロス島の開拓はスペイン植民地期末期の 19 世紀から本格的に着手された
- 現在ネグロスではフィリピンの約 6 割の砂糖を生産している
- ネグロス島では 1980 年代半ば、砂糖の経済危機の影響により飢餓が発生
- 日本では「日本ネグロス・キャンペーン委員会」が設立され、緊急支援が行われた

～現地コーディネーター～

フィリピン・エクスプージャー・プログラムでは、明治学院大学平和研究所の人々及び現地コーディネーターが学生のホームステイ先の手配や食事の用意、移動手段の確保や、私たちの関心事に合わせた現地の人々との引き合わせなどを行ってくれた。また、滞在中にはバディがインタビューへ行く際の同行や、インタビュー中の通訳、説明などを行ってくれた。またエバリュエーションにおいても現地コーディネーターに協力してもらい、インタビューを終えて新たに生まれた疑問点・不明点などを補うことができた。現地コーディネーターの中には実際に会うことのなかった人々もおり、彼らの協力があったからこそ、私たちの現地調査は安全かつ充実したものにする事ができた。

～インタビューに応じてくれた人々～

参加した学生の興味関心によって、インタビューをする人々は異なった。学生たちはあらかじめ現地コーディネーターに、ネグロス島へ行行って知りたいこと、自分の関心事などを伝える。そして現地コーディネーターが引き合わせてくれた人々にインタビューを行い、彼らの生活について聞き出していった。学生たちはそれぞれの関心に合わせ 1,2 つの村を訪れ、総計約 20 人にインタビューをすることができた。インタビューに応じてくれた人々は自身の家族構成や収入、子どもたちの教育や政府の援助の皆無、生活費は十分なのかなど、答えてくれた。

私たちが訪れた場所～フィリピン ネグロス島～

○西ネグロス州 バコロド市

- ・ハンドゥマナン村
- ・バナゴ村

○西ネグロス州 バゴ市

- ・タブナン村 マンバヒン

- ・ ドゥラオ村

○東ネグロス州 ギフルガン市(ギハルンガン・シティ)

- ・ トリニダッド村
- ・ カンバイラン村



(Google map より)

先に述べたように、このプログラムでは多くの人々に協力してもらい、貴重な 2 週間を過ごすことができた。感謝の意をここに記すとともに、この報告書が今後のフィリピン・エクスプージャー・プログラムに役立つことを願う。